

那珂川町図書館

オススメの1冊

『鐘は歌う』 アンナ・スマイル／著 東京創元社 【933.7 スメ】

世界的な大崩壊が起こり、言葉や文字が失墜した世界。人々は鐘の音に支配され、記憶をも奪われていく。瓦礫の街と化したロンドンでさまようサイモンは、ある不思議な目をした少年に出会い、忘れてはいけなかった大切な使命を思い出す。

この物語は 2016 年に「世界幻想文学大賞」を受賞し、「ブッカー賞」候補にもあがった美しい作品ですが、最初はとにかく謎だらけ。読み進めるうちに、読者はサイモンと共に世界の謎を解き明かしていくことになるのですが…。人は言葉で思考するもの、言葉のない世界で、サイモンはどう自分自身の違和感や疑問と向き合っていくのでしょうか。訳者あとがきでも「疑問こそが思考を活性化し、知識を増やしていく核」とあるという言葉が出てきます。記憶力を奪われ、疑問も持たない人々は、停滞していた世界が動き出すとき、何を感じるのでしょうか。

さて、言葉にあふれた図書館は知識の宝庫です。皆さんも日頃疑問に思っていることなどありませんか？素敵な本との出会いもあるかもしれませんよ。

『星の旅人』 小前 亮／著 小峰書店 児童書 【289 イノ】

日本地図の生みの親、伊能忠敬が測量の旅に出たのは、数え五十六歳の時。以降十五年にわたり、ほぼ日本全国を歩き通して測量しました。残念ながら地図が完成したのは忠敬の死の3年後ですが、「伊能図」（正式には「大日本沿海輿地全図」）と呼ばれ、日本の発展の礎となっていくます。

この物語は、伊能忠敬の測量隊（以降伊能隊）の第一次となる、蝦夷地への旅が舞台。実は、忠敬の測量の目的は地図作製でなく、当時の暦のより正確な値を出すため、江戸から蝦夷地までの距離を測ることにありました。そんな伊能隊の元に自分も蝦夷地まで連れて行ってくれという少年が現れます。少年の名は上林平次。別の測量隊に参加し、行方知れずとなった父を探したいというのです。父を探しつつも自分の将来に不安を抱える少年は、伊能隊との旅を通して、次第に忠敬の考える学問への神髄を学んでいくことになります。少年の視点から見た伊能隊の足跡、また当時の風俗や忠敬の生い立ち、様々な測量器具なども解説にて詳しく紹介されています。

那珂川市図書館司書（ぐり）